

二十歳の集い

令和7年



二十歳を迎えられた皆さん、おめでとうございます。今年、二十歳を迎えるのは、平成16年4月2日～平成17年4月1日に生まれた人、479人でした。

二十歳のことば 代表して発表された「誓いのことば」を紹介します。



小林 祐惺さん

今日は、二十歳を迎えた私たちの門出に対し、このように盛大な式典を催していただきありがとうございます。亀山の地で晴れて節目の年を迎えられた喜びを感じるとともに、大人の仲間入りを果たす責任の大きさを前に身が引き締まる思いです。

この場をお借りして、私自身の抱負を述べるにあたり、20年間の人生を振り返りますと、多くの方との

出会いや関わりを経て今の自分があることに気付かされます。

中学・高校と部活で励んだ「剣道」では、技術や体力だけでなく、所作や作法も重視される環境下で自分を律する精神を鍛えてもらいました。仲間と練習に打ち込んだ日々や指導者の方々からいただいた言葉は、教訓となって、今でも私をさまざまな場面で鼓舞し続けてくれます。

また、学びの楽しさに触れることができたのも、友人やクラスメイトといった仲間のおかげでした。各々の得意分野を教えたり、教えられたりを繰り返すなかで、一緒に取り組むからこそ深まる学びがあることを実感しました。それと同時に「人に教えること」を楽しんでいる自分の一面を認識し、以降、教育への道も将来の選択肢の一つとして考えています。

大学2回生となった私は、自身の将来をより具体的に描き始めなければいけない時期に入ったと自覚しています。そのため、進学先について、本当にこの道で良かったのかと考えるときもありますが、それ以上に今ある環境と時間を最大限に活用して、多くの経験を積みたくと前向きに毎日を過ごすようになりました。複数のサークル活動やボランティア、自主ゼミや留学など、活動の先々で出会う方々との交流が自分を見つめ直す機会となり、良い刺激になっています。十人十色の価値観や考え方に触れることで「なりたい自分」をより明確にしていく過程と「足りないと感じる部分」について貪欲に学びにいく姿勢を今後も大切にしていきたいと考えています。

最後になりますが、これらの機会に恵まれているのは、一重に昔から私が興味・関心のあることを尊重し、背中を押してくれてくれる両親がいたからです。本当にありがとうございます。また、こうして私たちが集い「今日」という日を迎えられたのは成長を温かく見守ってくださった地域の方々や教え導いてくださった先生のおかげです。この感謝の気持ちを忘れることなく、得ることができたさまざまな経験を糧にして、一人の大人としてさらなる成長を遂げることをお誓い申し上げ、私の「誓いの言葉」とさせていただきます。



川口 芽生さん

今日は二十歳を迎えた私たちのために、このような式典を挙行していただきましたこと、心よりお礼申し上げます。青春を過ごした仲間と共に今日という日を迎えられたことを本当にうれしく思います。

さて、二十歳を迎えた私たちの立場はさまざまですが、各々これまでの人生を振り返り、自身の将来に向けての歩みを進めていることと思います。私もこれまでさまざまな経験をし、多くのことを学ばせてもらいましたが、私たちの世代だからこそ肌で感じ、特に重要な学びになったと感じていることがあります。それは「当たり前

に享受している日常や環境の脆さ」です。私は現在、大学で国際関係について専攻しています。中学生の頃から海外に興味を持ち始め、進学した高校では交換留学制度を利用し、現地の方とコミュニケーションをとる体験を経て、より勉学に励みたいと考えていました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で海外へ行くどころか、普段の授業ですら対面を避けたオンライン形式となり、行事は縮小・延期されるなど、思い描いていた学校生活とは程遠い日常を過ごすことになりました。

長期にわたって自粛が呼び掛けられ、学校行事で大きな声を上げて仲間と盛り上がり、家族で行きたいところに出かけたりという「当たり前」と思っていたものを突如として取り上げられたあの日々は、普段どおりの日常を過ごせることがどれほどありがたく、幸せなことかを気付かせてくれました。そして、これから先もコロナ禍に限らず、多種多様な形で私たちにとっての「当たり前」は変容していくことになるだろうと感じています。だからこそ、後悔することがないように、常に変化し続ける世界の中で「今」自分が本当にしたいことを見失うことなく、行動し続ける私でありたいと覚悟を新たにしているところです。

最後になりますが、私たちが今日という日を無事に迎えることができたのは学校の先生、部活の仲間、地域の方々、そして誰よりも近くで応援してくれる家族の支えがあったからです。これまで私たちを支えてくださった全ての方への感謝を忘れず、今後もそれぞれの夢や目標に向かって日々精進し続けることをお誓い申し上げ、私の「誓いの言葉」とさせていただきます。